

県立新発田病院だより

第70号 2023年2月発行

新潟県立新発田病院

〒957-8588 新発田市本町 1-2-8
TEL.0254-22-3121 FAX.0254-26-3874
<http://www.sbthp.jp/>

【当院の基本理念】

1. 県北の急性期高度医療を担い、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんに優しく安全で信頼される病院を目指します。
3. 保健福祉・医療機関と連携して地域の基幹病院としての役割を担います。
4. 教育・研修を積極的に行い、医療の未来に貢献できる人材を育てます。

目次

- P 1. 巻頭言：新発田病院退職にあたって
P 2. 退官にあたり～新発田病院のおもいで
P 3. 新発田病院での初期臨床研修を振り返って、ミニクイズ、患者さんの権利
P 4. 患者さんの声、編集後記

新発田病院退職にあたって

新潟県立新発田病院 副院長 相場 豊 隆



1999年に当院に勤務を始めて24年近く、いよいよ定年退職となりました。

この間に経験した当院関連の出来事について思い出すままに記します。

1. 2000年問題：こちらに赴任してまずあったのが、医療機器のコンピュータトラブル対策でした。1999年の大みそかに、各科部長と病院に泊まり込んだことを思い出します。結局大したことは起きませんでした。
2. 新病院移転：その後新病院構想が具体的に検討され、2000年暮れに現在地と決定しました。そのあと具体的な建物構想が出てきましたが、当初は10階までで玄関は回転式ドアでした。私に関連した要望事項で現在まであるのは、ICUのシールド室、第2血管撮影室、脳外科外来自動ドアあたりでしょうか。自宅もそうですが、なかなか設計図をみて使い勝手を予想するのは難しいなと思います。2006年11月に移転しましたが、当初はほんとに「美しい」と感じました。ほとんどの職員が初めて使用することになった電子カルテにまつわるトラブルも思い出です。
3. 法的脳死判定：2011年2月でしたが、新潟県では10年ぶりくらいの2例目で、個人的には初体験で社会的にひと騒ぎありました。「人の口に戸は建てられぬ」を実感しました。
4. 東日本大震災：その翌月、金曜日午後でしたが医局にて長い大きな揺れを感じました。病院には目立った被害はなく、TVをみてDMATの出番と直感し準備を開始し出動要請のあと17

時過ぎに病院を出発しました。そのあと福島県立医大～岩手県立医大～岩手県立大船渡病院と移動し、地震翌日から大船渡周辺で活動しましたが記憶に残る3日間でした。(写真)



大船渡市盛小学校避難所にて

5. 病院機能評価受審：移転前にも古いバージョンで受審はしていましたが、当時は全く無関心で変な注文を付ける奴らとしか思えませんでした。その後いったん途絶え、2015年度にあらたに受審となったのですが、いきなり受審準備の副委員長といわれて面食らいました。2021年に再審査があり、委員長として合格をいただいて病院に寄与出来てよかったですと思っています。この間、実診療関係でもいろいろとありましたが、今回は省略いたします。

長い間地域の皆様にはお世話になりました。ありがとうございました。

退官にあたり ～新発田病院のおもいで

新潟県立新発田病院 副院長 清野 康夫



2023年3月を持ちまして定年を迎えます、副院長の清野と申します。病院だよりに挨拶をということでしたので、昔話を少しだけ記しておきたいと思います。

1997年に私が新発田病院放射線科に着任した時は、旧病院の時代で新発田城址に隣接したところにあり（現アイネスしばた）、二の丸病院とも呼ばれていました。増築を繰り返して迷路のようなところでしたが、放射線科も電子化される前のフィルムを用いた診断を行っている時代でした。重いフィルム袋をワゴンに乗せて運んでいましたが、新病院になってカルテが電子化されてからは、画像もフィルムレスとなり、ずいぶんと変化しました。ただ、新病院への移転と言っても予算が限られていましたので、すべての装置が新しくなったわけではなく、今までの機械を動かしながら最低限のダウンタイムで移設を行うという難しい引っ越しでした。

私が赴任したころの病院の医師数は全部で50名くらいでしたが、現在は100名をはるかに超えており、ずいぶんと大所帯となりました。当時は新発田市内の地元の病院という印象が強かったのですが、現在では下越一円、県北全体が医療圏となり、新潟市の患者さんも多く受け入れています。

さて、そんな引っ越しの際の出来事で忘れられないのがヒポクラテスの木のことです。もともと旧病院の玄関脇に植えられていた

のですが、引っ越しのドサクサで失うことになってしまいました。

ヒポクラテスの木というのは、あのギリシャの哲人であり医師でもあるヒポクラテスに由来するもので、ギリシャのコス島にあるこの樹の木陰で弟子達に医学を教えたという故事に由来するものです。もともとは、元新発田北蒲原医師会長の故富樫益郎先生がギリシャのコス島を訪れた際に種を持ち帰られ、発芽した3株のうちの1本が病院に植えられたものでした。他の2本は今も新発田の医師会と新潟市民病院に植えられています。

コス島由来のプラタナス～ヒポクラテスの木は、2005年の調査で日本全国に約230本あるということですが、新潟県内には11本が確認されています。他には新潟大学や日本歯科大学、長岡中央病院、中条中央病院、魚沼基幹病院などに植えられているそうです。

由緒のある木を失ってしまったのは大変残念なことですが、この木の精神を受け継いで「ヒポクラテスの誓い」を心に刻みながら職員一同、日々の診療にあたっています。

ところで、冒頭にこの3月で定年とは書きましたが、昨年導入した新しい放射線治療装置が軌道に乗るまでしばらくこのままお手伝いすることになっております。微力ながら新発田地域の医療を支えて参りたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

新発田病院での初期臨床研修を振り返って

初期臨床研修医 錦 織 瑞 彩

新発田市の隣にある胎内市で育った私にとって、幼い頃から新発田病院は最も身近な総合病院でした。「困ったら“県立”」県北地域の最後の砦である新発田病院を研修先として選んだのは、医師として地元で貢献したいという思いがあったことも理由の一つでした。

実際に研修が始まってみると、初めはわからないことばかりできないことだらけで、自分の未熟さに落胆する日々でした。しかし、周りの方々に支えていただきながら少しずつ経験を積むことができ、今では自信を持って診療にあたるできるようになりました。特に救急外来では、県内屈指の救急車受け入れ台数を誇り、ウォークイン患者も年間1万人以上受診するという環境の中で、軽症から重症まで様々な患者さんを診療させていただいたことは、今後の医師人生の中で大きな財産となると思います。

この2年間を通じて最も感じたことは、やはりスタッフの皆様の温かさです。新発田病院の研修医はほとんどの科を5週間ごとにまわるため、院内の多くのスタッフと関わる機会があります。どこに行ってもスタッフの方々は温かく接して下さり、右も左も分からなかった私たちを見守り、いつも優しく時には厳しく指導して下さいました。コロナ禍のため、先生方やスタッフの方々と飲み会などでマスクを外して交流することが少な

く残念でしたが、日頃から研修医を気にかけていただいたおかげで顔の見える関係を築くことができただけではないかと思えます。このような恵まれた環境の中で多くを学ばせていただき、研修先を新発田病院にして本当に良かったです。

振り返るとあっという間の2年間でした。もちろん忙しく大変な時期もありましたが、多くの時間は楽しく、充実していました。まだまだ未熟ではありますが、2年前よりは地元で貢献できる存在となれたように感じます。4月からは産婦人科医として県内で働く予定です。これからも学ぶことが山ほどありますが、この2年間の経験を糧に、新発田病院の卒業生として恥ずかしくないよう研鑽を積んでいきたいと思えます。最後に、この場を借りて関わってくださったスタッフの皆様に厚く感謝を申し上げたいと思えます。2年間、大変お世話になりました。



ミニクイズ

風邪などの感染症予防の基本となる手洗い。ハンドソープや石鹸で60秒間もみ洗いした後に流水で15秒すすいだ場合、手洗いなしの時と比べて手に残っているウイルスの数はどのくらいに減るでしょうか？

- ①約10分の1
- ②約100分の1
- ③約1000分の1



患者さんの権利

- 患者さん並びにご家族は、患者さんの病状、医療の内容につき十分な説明を受けることができます。その上で患者さんは、自らの希望する最適な治療を選択することができます。
- 患者さんは、プライバシーを守られ、個人として尊重される権利があります。国籍、人種、信条、社会的身分、経済的状態などによる差別を受けることはありません。
- 患者さんは、安全で快適な療養環境の提供を受けることができます。また患者さん並びにご家族は、自らの希望・意見を述べることができ、それを尊重される権利があります。

回答は4ページにあります。



投書箱から

《患者さんの声1》

私は「化学療法」のため通院しているが、その日、「消化器内科」で診察時に、医師から呼吸がおかしいと言われ、検査の結果、呼吸器内科〇〇先生の診察を受けて即入院という事となり、6月29日入院したが、入院後の治療の説明、対応等について助けていただき感謝申し上げます。〇〇先生の対応、説明、他部門との調整等が患者にとってわかりやすく、不安のないようにと患者目線の対応がすばらしく感動しました。今回は消化器内科〇〇先生、〇〇先生にも本当によくしていただき感謝です。

退院になり、先生に伝えていただきたく書きました。お願いします。

《回答1》

感謝のお言葉をいただきありがとうございます。

いただいたお言葉を励みに、患者さんの気持ちに寄り添った医療の提供ができるよう努力してまいります。

《患者さんの声2》

食欲不振からはじまった入退院（昨年）です。食事は薬以上に大事だと感じた年でした。皆様にはいろいろ助けていただき感謝でいっぱいです。今は残さずきれいに頂こうと毎食感謝の気持ちを忘れず頂いています。本日はありがとうございました。

《回答2》

あたたかなお言葉をいただき、誠にありがとうございます。快適に安心して療養生活を送ることができるよう努めてまいります。

《患者さんの声3》

この度4人目を授かり出産に至りました。4人ともこちらでお世話になり、外来受診でも、また病棟でもとても親切にして頂き、また心のケアもして下さいました。

上の子3人は普通分娩でしたが、この度は急ぎよ帝王切開となり初めてで怖かったのですが、こんな私に寄り添って下さりすごく安心でき、またゆったりとした気持ちで赤ちゃんと接する事ができました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にお世話になりありがとうございました。

《回答3》

感謝のお言葉をいただき、ありがとうございました。

妊婦さんに寄り添い、安心してお産ができるよう、今後も努めてまいります。

答え ③ 約1000分の1

ミニクイズ ～回答と説明～

「ハンドソープや石鹸で10秒間もみ洗いした後、流水で15秒すすぐ」を2回繰り返す「2度洗い」をすると手に残っているウィルスをもっと減らすことができます。ハンドソープや石鹸が残っていると手荒れの原因にもなるのでしっかりとすすぐようにしましょう。



編集後記

「県立新発田病院だより」の復刊第2号の発刊です。今月号は私たちの病院の医師の先生方のご活躍状況を紹介いたします。臨床研修医の先生方の希望に満ちた元気な姿が印象的でした。

《編集委員》

清野 康夫	三井田 博	浅野 堅策
川端 良徳	米持 賢一	神田 真志
長橋 美沙	長谷川京子	大橋 典子
塚原 康夫	宮島 悠	渡辺 麻理